

vol.53-05 (通算 602号)

2023年8月号

やどかり

2023年8月15日発行

(毎月1回15日発行)

1987年12月19日第三種郵便物認可

発行人 公益社団法人やどかりの里

代表者 増田 一世

〒337-0043 さいたま市見沼区中川562

TEL 048-686-0494

FAX 048-747-7030

URL <https://www.yadokarinosato.org/>

定価 50円 (含会費)

埼玉県障害者アート企画展

障害のある人の”表現“を社会に広げる

埼玉県障害者アートネットワーク TAMAP ± 0の取り組み

埼玉県では、2009年から「埼玉県障害者アート企画展」(以下、企画展)が開催されている。14回目となる2023年度は、12月に埼玉県近代美術館での開催が予定されており、展示作品の選考が始まった。

展示される作品は、埼玉県が行う「埼玉県障害のある方の表現活動状況調査」をもとに、企画展展示希望者から選考会を経て決定する。2022年度は、600名を超える作家の中から、111名の作家が選考され、約600点の作品が展示された。

この企画展を担うのは、埼玉県障害者アートネットワーク TAMAP ± 0 (以下、TAMAP)。県内の福祉施設・事業所を中心に、アーティスト、弁護士などさまざまな専門家や機関、地域の人たちや行政と連携して、障害のある人の表現活動や支援の輪を広げるために活動している。2016年には11団体であった加盟団体は2023年3月末時点で31団体となっている。やどかりの里としては、2016年度途中からすてあーず、2021年からあゆみ舎が参加。企画展や研修会などに参加しながら、障害のある人の表現活動を日常の実践につなげる可能性について模索している。

TAMAPでは、月に1度の定例会で障害者アートを取り巻くさまざまな情報交換を行う。企画展開催までのプロセスの中では、アートの専門家から障害のある人の表現の魅力や社会・美術との関係、福祉的な視点の大切さなどを学ぶ。また、選考会などの機会を通して、

実際の作品から、福祉、美術、法律などの観点で1人1人の表現をとらえ、アートの本質や可能性をさぐり、語り合う。企画展の選考会に挙がってくる作品には、それぞれの作家の生きる力が溢れており、その繊細さやエネルギーに心揺さぶられ、圧倒される。障害のある人の「表現」を目の当たりにし、感動や気づきを共有し、「表現とは何か」をそれぞれが考え、深めていく機会となっている。

「表現することは生きることそのもの」。その人が生きる日々の中に、その人の「表現」が隠れている。それに目を向け、見つけ出すことができるのか、その表現の背景にある想いに心を寄せ、その人の「表現」する力をいかに育むことができるのか。障害のある人と身近に関わる私たちの力量が問われている。

企画展は、障害のある人の「表現」の力を発信する機会の1つとなっている。すでに国内外で高く評価されている作家の作品から、福祉現場や地域から発掘された「アート？」な作品だがなぜか気になるというものまで幅広い。その多彩な表現に触れることで、「表現とは何か」「障害とは何か」を来場者に考えてもらうきっかけでもある。障害のある人にとって、「表現」が人や社会とのつながりやその人自身の世界を広げていくことになればと願う。アートや芸術の専門家だけでなく、作家、行政や福祉現場のスタッフなど“みんなで作る”展覧会は、2023年度も、障害のある人のアートや表現の可能性を社会に問いかける。(宗野 文)